

52

刺激伝導系 (das Reizleitungssystem) の田原淳による 邦名は『刺撃傳導筋系統』であった

須磨 幸蔵¹⁾, 島田 達生²⁾, 島田 宗洋³⁾

¹⁾医療法人社団 成和会, ²⁾大分医学技術専門学校, ³⁾救世軍清瀬病院

心臓に発生する興奮刺激を伝える特殊筋組織は通常刺激伝導系と呼ばれる。田原の刺激伝導系に関する有名な原著にはタイトルとして das Reizleitungssystem が用いられているが、田原自身が邦名でどのような呼称を用いたか分からなかった。

ところが、ごく最近田原の刺激伝導系に関する邦文総説が見つかった。それは明治43年4月に福岡で開催された第16回九州沖繩医学会の講演概要 (九州沖繩医学会誌, 1912: 6, 209-216) であり、8頁に及ぶ、かなり詳細なものである。

まず講演のタイトルは「心臓ニ於ケル刺撃傳導筋系統一名ヒス氏筋索ニ就テ」である。書き出しは「私ハ先刻始メテ稲田博士ヨリ是非ヒス氏ノ筋索ニ就テ話ヲシテ呉レヨト注文サレマシタ様ナ次第デ何モ用意ガシテアリマセン上割合ニ込ミ入ッタ部面ノ事デ御分リ悪ヒカト思ヒマスケレドモ兎ニ角御話シテ見ルコトニシマシタ」とある。稲田博士 (当時九大内科教授) が田原にヒス筋索について講演を依頼したことについては、当時ヒス筋索は既に人口に膾炙していたが、田原の発見した刺激伝導系については適当な邦名がまだつけられていなかったのが理由と考えられる。講演依頼者の真意は田原の発見した刺激伝導系についての講演であったと思う。

何故、刺撃傳導筋系統という名称を付けたかについては田原は「ソレデ私ハ此連絡筋全体ヲ心臓内ニ於ケル一種特別ノ筋系統トシテ爾餘ノ通常心筋ト區別スル事ニシマシタ……。此筋系統ノ走行ヲ見マスト何ウシテモ此者ハ上房ニ起リシ収縮刺撃ヲ室壁ノ心筋纖維ニ伝導スルノ用ヲナスモノトシカ思ヘマセン。夫レデ私ハ別ニ生理学的動物試験ニテ確メタ譯デハナイケレドモ此者ニ断然ト標題ニ掲ゲマシタ様ニ刺撃傳導筋系統ト云フ新名ヲ附シテ発表シマシタ」とある。つまり当該筋系統の解剖組織学的研究から生理学的機能を表現する名称を付けたという事である。

刺激伝導系の形態については独語原著 (哺乳動物心臓の刺激伝導系, Gustave Fischer, 1906) に「樹木の形態をとる」と記載されているが、この邦文総説ではもっと詳細に記載がなされている。すなわち「例ヘテ見レバ根抜キニサレタル葉ノナキ1本ノ樹木ノ様ナ形ヲシタモノト思ヘバ宜イ。即チ根モアリ、幹モアリ又多数ノ枝モアル、併シ此根及ビ幹ハ枝ニ比スレバ非常ニ發育ガ不良デ通常ノ樹木ノ根ノ様ニ著シク蔓延シテ居ナイで唯漸ク根ノ形ヲシテ居ルト申ス位ノモノデアアル……」この根は房室結節 (田原結節)、幹はヒス束である。

なお刺激伝導系の生理学的研究は田原と一高、東大の同級であり、九大生理学教室を主宰した石原誠のもとで前野哲夫らにより広範な研究が行われた。

田原の刺激伝導系の研究は心電図の普及にもつながった。刺激伝導系の知識がなければ心電波形の意味するところが理解できないからである。我が国における初めての心電図の記録は九大において石原誠、稲田龍吉によって行われた (『内臓転錯症2例のエレクトロカルディオグラム』供覧, 日内学誌 1913, 1: 297)